

一歩会だより 第21号

テーマ：令和の時代へ
一歩会の活動と今後



四国通路の環境と文化を守り、世界遺産へ！

NPO法人 徳島共生塾一歩会

事務局担当（米川）〒779-1121 阿南市那賀川町黒地 158 番地 4

080-6397-6888 Tel/Fax 0884-42-1371

E-mail: yonekawa-hirosi-anan@tune.ocn.ne.jp ホームページ: <http://www.toku-ippokai.org/>

2019年06月発行

目 次

- 写真で綴る一步会&ユースのこの一年間の活動・・・・・・・・・・ 2～4
- 巻頭言、一步会だより（21号）の発行に当たって・理事長 谷口 右也・5

☆ テーマ 令和の時代へ一步会の活動と今後

【特別寄稿】

- 令和の時代のNPO法人徳島共生塾一步会に期待！公認先達 山下 正樹・6～7
- メンタルやハンディーを持つ方々との保護者との遍路紀行・・事務局・・7
- 飛行機とカミナリ・・・・・・・・・・・・・・・・・・大垣 光治・8～9
- 令和時代に、一步会に期待すること・・・・・・・・・・瀬尾 規子・10

【一般寄稿】

- 平成最後の歯ノ辻神社の清掃活動・・・・・・・・・・米川 比呂志・11
- 自然公園監視業務に従事して・・・・・・・・・・姫野 博司・・12
- 平等寺へ遍路道を辿る・・・・・・・・・・富田 欽二・・13～14
- 美しい大自然の奄美大島紀行・・・・・・・・・・富田 欽二・・15～18
- 徳島を日本一の清潔県に・・・・・・・・・・福谷 洋介・・19
- 一步会ユースの林さん福谷さんが投稿・・・・・・・・林 大輔、福谷 洋介・・20
- 会員の皆さんへのお願い・編集後記・・・・・・・・事務局・・21

写真で綴る一步会&ユースのこの1年間の活動（1）



①緑化推進絵画コンクール一次審査



②1018年10月5日県職員会館体育館



③阿瀬比峠より平等寺へ徳大留学の遍路旅



④平等寺住職谷口さんがお出向い。



⑤一步会、笠井光顕さんの奇術が見事



⑥1月19日味祭で歩会&ユースの新年会

写真で綴るこの1年間の一步会&ユースの活動



⑦姫野氏が ECO フォーラムで表彰される。(2019 年 1 月 24 日)



⑧歯辻神社下で一步会&活動プラザの清掃活動
(2019 年 3 月 24 日)



③障害者及び家族との遍路旅、地藏寺到着、



④安楽寺でのお参り、2019 年 2 月 3 日)



⑤世界遺産登録協賛、四国一斉遍路旅、井戸寺
より出発、眉山登頂～恩山寺へ



⑥本日の最終地恩山寺に到着

2019 年 2 月 24 日

昭和コミュニティーガーデン、初夏の風景 令和 元年 6月 28日
NPO 法人 徳島共生塾一歩会



① 昭和町8丁目、道路北側入り口



② 昭和コミュニティーガーデンの看板



③ 北入り口左、花壇



④ 北入り口より左中央付近の休憩所



⑤ 公園北の高架橋より撮影



⑥ 道路南部よりの入り口



⑦ 末広高架道路脇、アジサイが満開



⑧ 昭和CGの南側通路

一步会だより(第21号)の発行に当たって

特定非営利活動法人 徳島共生塾一步会 理事長 谷口右也

年号は「令和」とかわり、私自身は、新開さんから理事長を引き継いで、丸2年が経過したところであります。

この間、至らぬ私に対し、会員各位や関係者の皆様には、ご支援やアドバイスなど賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、地球規模で見れば、政治的な軋轢はさておき、温暖化には歯止めがかからず、プラスチックごみが大きな問題として(やっと)クローズアップされ、国内的には、悲惨な事件事故、また災害が引きも切らず、財政状況も忘れ去られたかのような感があります。

前号では、「高松市丸亀町商店街」の再開発事業の成功しつつあるお話。

要するに、町の再生を目指す方々の「商業地に人が張り付いたのではなく、人が暮らしているところに商業が自然発生的に集積したのが商店街」と考え、再生プランをあくまで自分たちで練り、そのコンセプトは「自分たちがハッピーな老後を暮らすためには、この街をどうすればいいのか。」という「当事者目線」であったというお話をさせていただきました。

私たち一步会も、活動のマンネリ化やメンバーの高齢化、参加メンバーの固定化や広報力不足など、これまで、幾多の団体が経験してきた「大きな壁」に直面しているところであります。

当然、何かスペシャルな解決策、「これをやれば解決するぞ!」という魔法のような回答があるわけではありませんが、「より高い志」、そして「そこに向かっての一步一步の歩み」だけが、目の壁を乗り越え、「ニュー・一步会」にたどり着く「唯一の道のり」だと信じています。

さて先日、仕事で、とある定時制高校の就職セミナーで講演を頼まれ、最後に、「高校生のあなたに聞いて欲しい話」をしました。

実は、自らに発し続けている言葉でもあり、その一節を書かせていただき、私のご挨拶とさせていただきます。

「高校生のあなたたちは、これからの人生を、『無くしてしまったものや、今持っていないことを嘆く生き方を』をしますか、

それとも、『今あるものを喜び、感謝し、そして、これからの未来に希望を見いだす生き方』をしますか？」



【特別寄稿】

令和の時代の NPO 法人・徳島共生塾 一步会に期待！

公認先達・歩き遍路の会 山下 正樹

NPO 法人・徳島共生塾一步会は 1996 年、県環境ボランティアリーダー養成講座の卒業生らが中心になって設立された。「自分たちの地域の課題を、住民・企業・行政と一緒に汗を流して、どう解決していくか」の理念が素晴らしい。私も、歩き遍路の仲間 5 人とともに一步会主催の「山のようになった遍路道のごみクリーンアップ作戦」に参加させていただいたのがご縁で、今もいろいろとお手伝いさせていただいている。

あれだけの大作業を、事故なく官民の協力で見事に成功させた新開理事長ほか役員の指導力とスタッフの献身的な活躍が実を結んだ見事なものだった。行政、産廃業者、地権者など多くの関係者への粘り強い説得を続け協力体制を築けたことが成功の要因だと新開善二前理事長から伺った。それらの様々な活動を引き継ぎながら、いまは、「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会の有力メンバーとしてすばらしい活躍しておられる。令和の新しい時代を迎えて、時代とともに活動内容は変わっていくと思われるが、これまでのように地道にコツコツと活動を続けていただきたい。私も微力ですが霊場会・公認先達として、これからも一步会さんのお手伝いをさせていただくつもりだ。

ご参考事例！ 200 年以上も続く紀州有田接待講のお接待の意義！

私が、お手伝いしている和歌山県有田市の紀州有田接待講（世話人・江川博夫）のはじまりは、1818 年頃とされている。四国から遠く離れた土地に住む和歌山の弘法大師信仰者たちが、自らは四国八十八ヶ所をまわる事が出来ないため、その想いをお遍路さんに託すという意味が込められて 200 年以上の歴史がある接待講だ。

特に、明治時代、元講元の則岡新助氏は、元々体が弱く痩せていたが、ある日出会った修行僧と共に四国八十八ヶ所巡拝を行った事で、丈夫な体を手に入れた。これをきっかけとして、弘法大師を篤く信仰するようになり、地域の方々とともに有田接待講の接待講浄業に注力された。昭和 45、6 年まで接待船として使用されていた漁船（うたせ船）は、接待講の皆さんを船上で接待する事でその恩恵として「大漁」を願った。現在は、自動車とフェリーで四国に向かう。

かつて接待船が存在する頃は、漁船二十数隻に乗りきらないほどの世話人が四国に渡り、霊山寺内の紀州接待所に寝泊りをしながら 7 日間、接待を行った。しかし、現在、主となる 2 名の男性世話人が霊山寺近辺の民宿に泊まり、他 7、8 名の世話人は日帰り・日替わりで霊山寺境内の紀州接待所を訪れ、接待を行う。この紀州・有田接待講の様子は、昭和 50 年 5 月 19 日、NHK テレビ・新日本紀行で「お接待船団」として放送されている。

昔は、毎年春の接待には、草履やわらじ等の「物品」を近隣住民や他の世話人からもらいうけ、接待品として霊山寺に持ち込んだが、時代と共に変化し、現在は地域の人々からは、

特産の有田みかんなどを提供される。最近は「金銭」が多く浄財として納めてもらい、そのお金でお接待品のお菓子や有田特産みかんジュース、有田みかんなど物品を買い、持ち込んでいる。平成 31 年 4 月のお接待では、有田地区約 1000 人の方々からの浄財を、各地の世話人 80 人が集めて、本部の 7 人の代表世話人が全てを取りまとめ、一番札所・霊山寺の紀州接待所において 5 日間で約 2 千人のお遍路さんにお接待をした。



紀州接待所でのお接待が終わると、世話人は、有田に帰った後、一番札所・霊山寺の祈願札を受け取り、接待品を提供した人や浄財を提供してくれた一軒一軒の人々にお礼のあいさつとともに配り歩く習わしだ。200 年続いた紀州有田接待講のお接待も、地域住民の高齢化や世話人の後継者不足など多くの課題を抱えているが、世話人たちは、これから先もお接待文化を後世に引き継ぎたいと地域の方々と話し合っている現状だ。私も協力させていただくつもりだ。

以 上

メンタル面やハンディーを持つ方々とその保護者との遍路紀行



①徳島駅前より 0 9 2 0 分地藏寺、準備体操



②安楽寺へ最初のお接待



③安楽寺皆さん本堂参拝



④午後のお接待、熊谷寺へ



⑤熊谷寺の大師堂で打ち止め

飛行機とカミナリ

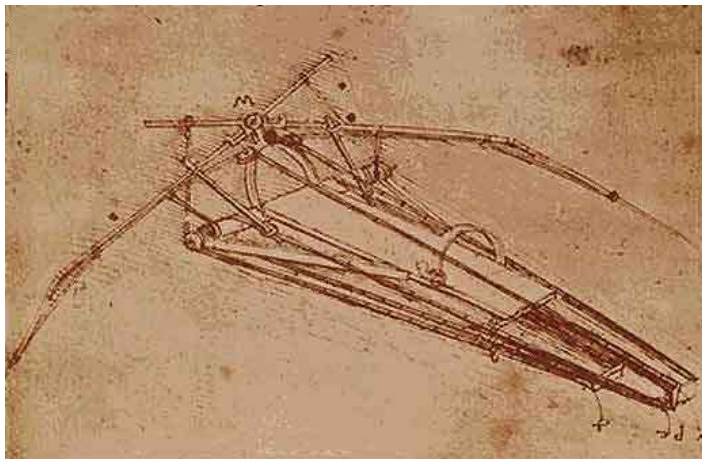
大垣光治

出前授業をするために、小学校へ行くことがあります。「自然ってうまくできているな。不思議だな。」と感じてくれたらいいなと思って話しをしています。今日は、飛行機とカミナリについて紹介します。

(1) レオナルド・ダビンチの飛行機

「モナリザ」や「最後の晚餐」を描いたレオナルド・ダビンチ（1452～1519）は、画家として大変有名ですが、実は科学技術の面でも幅広い知識を持っていたのをご存じですか。

ダビンチは、「空を飛ぶ機械」にも強いあこがれを持っていたようです。そのため、鳥はどうやって空を飛ぶのだろうと、その飛んでいる様子や、羽の構造を一生懸命に調べています。そして、羽ばたく飛行機や、ねじ式ヘリコプターなど、こうしたら人間も鳥のように飛べると、たくさん設計図を残しています。「鳥は数学的法則に従って活動する機械である。」（レオナルド・ダビンチ）



いろいろな鳥を調べましたが、一番参考になるのはコウモリだとそうです。そのその羽ばたき方を参考にして、ダビンチが考え出した羽ばたき飛行機の設計図です。人がうつぶせになって、足の力で羽を鳥のように羽ばたかせます。

http://www.ops.dti.ne.jp/~manva/da_vinci/as_scientist/for_flight.htm

本当かどうか分かりませんが、この設計図通りに作って、弟子に実験をさせたという話が残っています。もちろん、結果はおそらく、・・・・

人間がいくら巧妙だといえども

自然に存在するものの美しさ、単純さ、そして素直さを超える

発明品を創ることは永遠にないだろう。 （レオナルド・ダビンチ）

（２）平賀源内のエレキテル

江戸中期の発明家で、日本のレオナルド・ダビンチとして有名な平賀源内は、現在の香川県さぬき市志度で生まれました。４６歳の時日本で最初の発電器エレキテルを完成しました。

平賀源内は、エレキテルを初めて創ったということで有名ですが、本当のことを言うと、長崎から壊れたオランダ製のエレキテルを持って帰って修理して完成させたということらしいです。



エレキテルとは何でしょう。

エレキテルとは、冬場ドアのノブを持った時にビリビリとびっくりさせられる静電気の発生装置です。当時、西洋ではこのような装置がたくさん作られ、治療や見世物に用いられていたようです。

平賀源内が手に入れたのも、そのうちの一つで、オランダ人が長崎に持ってきて日本に残したものだと言われています。しかしそれが、いつ、どのような経緯で、源内の手にはいったのかは実はよくわかっていません。

<http://otonanokagaku.net/issue/edo/vol4/index05.html>

エレキテルというのは、小型のイナビカリを作る装置のようなものとも言えるかもしれません。ところで、なぜ稲の光「イナビカリ」というのでしょうか。

実はカミナリが鳴ると、空気の中にある窒素が分解されます。その窒素成分が、雨水に溶けて土の中に入ると、その土地は栄養豊かになり稲が良く取れるそうです。そのため、カミナリのことを「稲の光イナビカリ」とか「イナズマ」と言うそうです。イナビカリは、自然のうちに肥料を作っていたのですね。

すごい仕組みですね。

そんなすごい仕組みを持っている地球は、ゴミをロケットで宇宙のどこかに捨てているわけでもありませんし、きれいな空気や水をどこかの星から運び込んでいるわけでもありません。いつまでも、この地球をみんなで、守って行きましょう。

令和時代に、一步会に期待すること

NPO 法人江川エコフレンド
理事長 瀬尾規子

私は、平成12年8月に地域の人たちと江川エコフレンドを立ち上げ、毎月1日の早朝に江川湧水源周辺と、鴨島第一中学校西側の多津美橋から江川・鴨島公園の間の江川沿岸の清掃・除草活動を行っています。平成18年にはNPO法人になりました。平成31年4月の定例作業で、参加人数は1万7千人を超えました。令和元年は設立20年目になります。新しい時代に理事長として20年の節目を迎えることができたことを嬉しく思います。私の環境活動の原点は、徳島県が主催した環境ボランティア養成塾「共生塾」であり、共生塾を修了した人たちが作った「一步会」です。新開理事長のリーダーシップと時代を見据えた活動はすばらしいものでした。特に、定款を変更して取り組んだ遍路道のウォーキングや清掃活動、四国遍路の世界遺産への登録に向けた活動はユニークな活動だと思います。1200年を超える歴史を持つ四国遍路は、世界に誇れる文化遺産であり、外国人観光客を迎えることができる貴重な地域資源です。この貴重な遺産を後世に残すためには、地道な清掃活動や遍路道の整備が必要です。「吉野川アドプト」のように「四国遍路アドプト」を作り、清掃活動で四国を繋げていくのはどうでしょうか？因みに、第11番札所藤井寺と第12番札所焼山寺の遍路道は、鴨島の「かも研究塾」が定期的に清掃活動を行っています。毎年5月に開催している「最後まで残った空海の道ウォーク」は、今年で25回目を迎えましたが、これを支えているのは、1年を通して遍路道の清掃と整備を行っている「かも研究塾」です。

さて、平成を駆け抜け、環境美化に取り組んできた一步会が、令和時代をどう生きるか？について考察します。どの団体も高齢化が進んでいますが、人生百年時代。高齢者も元気にいきいきと頑張る時代です。一步会は、「一步会ユース」から熟年のメンバーまでいるのが強みだと思います。知恵と力を合わせて、無理なく、できることをできる時に楽しく活動していきましょう。それが、継続する秘訣だと思います。

今、私が気掛かりなのは、海洋プラスチック問題です。海に年間少なくとも800万トンものプラスチックごみが流れ込んでおり、海にはすでに1億5000万トンものプラスチックごみがあると言われています。ウミガメがポリ袋をクラゲと間違えて飲み込んだり、死んだクジラの胃から大量のビニール袋が見つかったり、海鳥やアザラシまで被害が及んでいます。特に微細なマイクロプラスチックが生態系に及ぼす影響は深刻です。日本は年間150万トンものプラスチックくずを「資源」として、中国やアジア諸国に輸出していましたが、中国がリサイクル処理に伴う環境汚染を理由に2017年から輸入規制を始めたので、日本のプラスチックごみの行き場がなくなりました。他国にごみ処理を依存するのではなく、私たち日本人が対策を考えなければなりません。日本のプラスチック生産量は世界第3位、一人当たりの容器包装プラスチックごみの発生量は世界第2位です。国内で年間に流通するレジ袋は推定400億枚と言われています。(WWWF ジャパンより)

ごみ問題を解決する基本は、3R (Reduce、Reuse、Recycle) です。これに Refuse を加えて、レジ袋を断りマイバッグを利用することを徹底すると、地球環境を守ることができます。今年6月に大阪で開催されるG20サミットでも「プラスチック資源循環戦略」を協議する予定です。一步会は新しい時代に向けて、「海洋プラスチック問題」を解決するリーダーになってはいかがでしょうか？そのためにも、大阪G20サミットに注目したいと思います。



ケニア・ワタミュビーチに打ち寄せられたプラスチックごみの山

平成最後の歯の辻神社の清掃活動

阿南市 米川 比呂士

今回は平成最後の清掃作業となりました。

かれこれ私の記憶では今まで10回はしたような気がします。毎年々これでもかというくらいのごみを拾いました。タイヤ、冷蔵庫、TV、バッテリー他いろんな家庭ごみ、弁当ゴミ、缶等それらを三木産業に引き取りをお願いしてました。引き取り額は毎回2万円前後かかっております。

一歩会からの参加者は、小松夫妻、原さん、山田さん、谷口さん、富田さん、姫野さん、等 活動プラザからは内藤夫妻、神山町の清掃職員4名でした。いつもは新開さんが元気に来られて参加者にいろいろ支持をして下さっていましたがお体のほうが本調子でないということでこれからのご回復を望みますとともにこれまで一歩会を指導し続けてくださったこと本当に有難うございました。

今回参加して下さった皆様にも本当に有難うございました。

さて今回のゴミの状況は例年不燃物が多かったのですが今年は可燃物が幅広く散乱している状態で冷蔵庫、TVを引き取って貰って（額8000円）いつもよりすごくきれいになったように思えました。

ゴミの分量は95リットル入りの袋で50個ありました。

一歩会から今年もミニチュアの鳥居を作ってみてはとの御提案がありました。以前新開ど作ってみようと思います。

平成は、一歩会みんなのお力で清掃活動がたくさんできてどれだけ徳島県がきれいになったかそれを見ると頭が下がる思いがします。

令和になっても時々ご迷惑かける私ですが長い長いお付き合い何卒よろしくお願いします。



私は一步会が徳島県より受託している「自然公園監視業務」に従事することから、一步会の活動が始まりました。環境ボランティアの NOP 法人である一步会のことは、共生塾の講義に参加していましたので、「環境・美化活動・環境保全」と、「四国遍路の環境と文化を守る活動」このような活動による環境の改善で、地域社会に寄与することだと、おぼろげに理解したつもりでいます。自然公園の監視区域内には遍路道も多くあるので、訪れるお遍路さんが不快な思いをしないために、何か出来るのではないかと。このように理解し一步会の活動として公園監視業務に従事しています。

この監視業務は受託業務ですが、地域の宝である自然公園・遍路道や室戸阿南海岸国立公園をパトロールしていますと、やはり設置されてから年月を経ているため荒廃があります。

このことを積極的に捉え、荒廃の現状を県の担当者に報告することで、保全工事や補修計画の一助になった事もあったと思っています。

またパトロールしていますと地元の人が四国の道や遍路道の整備や保全に汗を流して作業しているのに出会うことがあります。地域の宝として、その自然をいかに大切にきて来たかを感じさせられました。一步会としてもグランドワーク活動の一環としてこのような地域活動に積極的に参加支援ができればと思います。

最近パトロールで目にするのは、その自然を地域の外から来た人が、無頓着に荒らし、家庭ごみを不法投棄している現状です。私も一步会の一員として地元の人や団体に協力して遍路道の清掃活動に参加してきましたが、まったくのイタチごっこです。不法投棄のゴミを除去し清掃するのに、一年後には以前よりゴミが多く投棄されていることが多々あります。しかし放置するとゴミがゴミを呼ぶ事態となり、收拾のつかなくなる「ゴミの山」になるので、清掃は続けながらインターネットの時代、いろいろな方法で発信して、ゴミの不法投棄防止を呼びかけ、不法投棄は犯罪であることをアピールしていく必要が有ると考えます。

しかし、これらの活動を実施して続けるには、お金と人が必要です。そのために一步会としては、活動内容を積極的に発信し賛同してくれる人・企業を募り毎年一人でも会員を増やしていくことだと思います、出来ることを出来る範囲で、活動理念に沿って実施できれば作業に従事した人も、お金を出した人も達成感を得ることができると思います。

風光明媚な遍路道（鶴林寺）



橋の下に投棄されたゴミ



平等寺へ遍路道を辿る 会員 小松島市 富田 欽二

徳島共生塾一步会は四国遍路という新たな人権啓発とう目的を持って、平等寺への遍路ワーキングを平成30年11月10日（日）徳島大学の海外の留学生や先生それに遍路関係者や一步会など36名で徳島駅をバスにて08:00発、途中、参加者の集合場所、道の駅わじき、でトイレの後、遍路の心を味わって戴く為に全員に菅笠、白衣、輪袈裟、それに金剛杖を参加者の皆さんに着用して戴きまして、バスで阿瀬比峠へ到着、準備運動などを実施して09:55分、平等寺へ遍路道を約6.5Kmのウォーキング、この周辺は空家もあるが農家の家が数軒ある田舎風景、遍路道には昭和の時代を感じます。1kを過ぎると高度200mの大根峠そこより下る事30分、約50mの小高い丘を越え、浮島神社を参拝、更に新野小学校などの町を通過して、12:07分 本尊薬師如来、 平等寺「平等に隔てのなきと聞く時はあら頼もしき仏とぞみる」へ到着した。天気も良く、清々しい遍路ウォーキングでした。



①平等寺へ先ず大根峠10:30分



②大根峠の下り道を経て町へ



③参加者、それぞれが浮島神社参拝



④自然に溶け合った神社11:38

平等寺ではわざわざ、谷口住職がお出迎えになり、ご案内と平等寺の歴史や説明を戴いた。
エピソード 境内の一面に平等寺発祥の由来ともなった大師が掘ったという霊泉の場所は本堂へ上る階段の手前にこんこんと湧くこの泉は「開運の泉」と呼ばれ、人気スポット水には今も大師の霊が宿り、飲めば万病に効くと言われ、人気がある。本堂にはギブス、や車椅子等が沢山置かれている。これは四国遍路によって健康を取り戻した人々が、感謝

の意味を込めて奉納したものと言う。木の手押し車で人を運んで寺へ来た姿が浮かぶ。



⑤平等寺の山門で住職谷口さん 12:08



⑥加茂谷在住の通訳さんが説明

金昔、遍路の歴史 四国遍路はどのように始まったのかは実は定かではない。空海が始めたとか衛門三郎が空海を追って四国を巡ったのが始まりであるとも言われています。

文献としては空海（744－835）24歳の著作「3教指帰」や平安末期の「今昔物語」「梁塵秘抄」にその記述があり、江戸時代になると、僧信念が初の四国遍路ガイドブック「四国遍路道指南」（1689年）を刊行し大衆に貢献、この頃に八十八という数字が現れます。江戸時代の人気作家である十辺舎一九（1765～1858年）も1789年「丸亀に上陸し善通寺、金毘羅に参拝する」との記録があり、後に「金比羅参拝続膝栗毛」などを著している。変わった处ではシカゴ大学の人類学者スタール博士（1858は～1933年）は1921年に八十八ヶ所を結願し、中でも53番円明寺の本尊厨子に打ちつけてあった銅板の納札を高く評価し「お札博士」として知られている。又、俳人、種田山頭光（1882～1940年）も四国を巡拝し、旅に生きる彼のイメージと遍路旅がピッタリと重なり、現代人の旅情を掻き立てている。現代では自動車、バス、鉄道、飛行機の発達により、新しいスタイルの遍路旅が生まれている。今回も徳島大学留学生という国際的な交流が生まれ、文化が育まれたのは遍路旅の中にあり徳大、大隅先生等にも感謝したい。そして14:00、平等寺での心の収穫を得て、バスで、徳島へ向かった。 終



⑦皆さん合同で祈願して終了、13:01。



⑧食事をしながら仏や平等寺など学ぶ。

美しい大自然の奄美大島紀行

会員 富 田 欽 二 (小松島市)

奄美の旅へ

今回の旅は一昨年9月6日、読売旅行を利用した旅でしたが、費用は大変安く、2泊3日で私の町、小松島よりタクシーを利用して鳴門まで出て、そこで徳島、高松、坂出、丸亀、観音寺など、香川県の人達と交流し合計46人。鳴門より伊丹へはバスを利用、そして奄美への飛行機の旅、それも一人55,000円でした。ところが、台風第16号の影響があり、若し奄美大島へ、着陸出来なければ、キャンセル料が出さねばならぬと云う、極めて微妙な出発となりました。旅行社やJALも気象情報には最大の注意を払い、09:30分に飛行を決断、奄美大島到着の1時間程前までは雷があったとの事などで緊張し、その1時間は、祈るような思いになりました。「奄美大島への飛行」は、台風や暴風、それに豪雨など、色々な情報を考えなければならない事を旅行社より聴きました。幸いにも、この日は無事、着陸することが出来ました。(後で、奄美タイムスの新聞を読むと、台風16号は不思議なことに進路が奄美大島の空港へ向かっていたのですが、北へ直角に約1Km弱曲り、空港を避けて通過したことが判明、それが幸いでした)到着後、まずは昼食。龍郷町の洒落たレストランにて奄美大島独特の「けいはん、ひさ倉」へ。その料理は鶏肉やマンゴウ、地元の野菜などを縦に割った具を平たい皿に載せて、あっさりしたたれの様なものをかけ味噌汁と共に戴く。奄美独特の料理で、鹿児島から来た役人など、これで、接待されたと云います。外の庭先にはマンゴウなども生えていました。その龍郷町ですが、幕末から明治にかけて活躍した政治家、西郷隆盛、安政6年(1859)、西郷は安政の大獄の余波で奄美大島に流され、ここで現地の島妻、愛加那を娶り、約3年の時を過ごします。その3年、先ず西郷隆盛が奄美でどうゆう生活をしたのか偲びます。

奄美大島の西郷隆盛

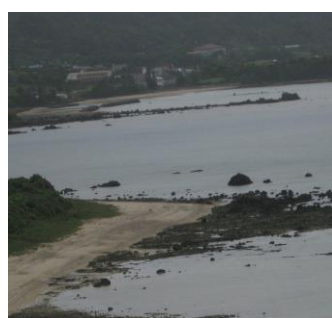
隆盛の最初の滞在地は吉之助として龍郷町から始まりまし
た。現在は住居跡には木造家屋が復元され、庭には勝海舟の筆による記念碑が建っています。最初のうちは流罪人同様の嫌がらせ等が多かったとのこと。吉之助の収入は6石程、藩より支給された草屋葺きの小さな小屋、最初のうちは、味噌を近所のおばさんに現物を添えて頼むと、豆をごまかして作って懐に入れたり。近所の子供に手習いを教えているが彼等は吉之助の炊いたご飯を盗み食いするなど、子供らの卑しい行いを嫌う一方で、島民から搾取する島役人の行いを憎悪した。その年、サトウキビが大凶作、生産高は前年より163万斤減産して、663万斤、島内の土地は殆どはサトウキビ畑で、米の産額は僅かであった。(今年の旅で島内を周遊したが、米は殆ど見当たらず、サトウキビが大半でした。今台風などが多い地域ですので鹿児島より今も、鹿児島より船便が無い時は、物価が上がり、大変!と島民は云っています。)その頃には農家でサトウキビの収穫が少なく出荷できない人達を罰則に収監していた事に西郷は役人に不服申し入れ、聞き入れなければ、藩に提訴するという強硬な申し入れをして、その処置を緩和。それに住民には「ユタ」と云う

信仰の迷走を、藩で分かっている当然の事をユタを呼び、住民の前でお祈りしてほしいと云って実現させたが、その嘘が、住民に分かり、住民が根こそぎとられていた生活用品を今後防止できた事など、寺子屋の人気もあって、西郷の人気が出てきた。自炊でいやになっていた生活の場も竜家の当主「佐民」が訪れ、「近頃は臥の事もあるとか、ついでには暫く本家の離れにお住まいを移し養生なさいもんせ、ご本復なされたときは、私の息子にも学問を教えてもんせ」との申し入れがあり、喜び、受け入れた。その縁で愛加那と知り合う。彼女の家は竜家の分家で広い田畑を所有し、漁業や製塩を行っている。5人兄弟で二人の兄と姉、妹がいた。吉之助より11歳年下の彼女は毎日畑で働き、芭蕉布、大島紬の機織りもしていた。吉之助は竜郷の役所に出向く時、愛加那を見かけると声をかけ、たまには鋤を取り、芋掘りを手伝う事もあった。愛加那は約163センチの面影の美女、色々の経緯があつたが、結ばれ、奄美の3年間、一男、一女の子供が授かった。その長男は後程、千葉県知事になっている。その後、36歳で鹿児島へ職場に復帰するも、亡き島津斉彬、の次の世代となった久光、の命に少し違った行動を取ったとの事で、今度は徳之島経由沖永良部島へ流された。ここは過酷な獄舎生活、海岸に近いバラックで便所も同じ部屋の4.5畳半の生活、蚊が襲い、風があれば塩水も被るという最低の状態に合ってしまった。そんな中でやせ細る中、座禅を組み、拘束を耐え、監視人の命令に従っていた。幸い、その監視人が見るに見かねず、自費でもう少しゆったりした家を建て、住まわせてくれる事になった。後で分かったのは藩の命での海岸でのバラック建は間違っていたという。命の限界だった。ようやく元治元年(1864年)38歳で鹿児島に帰ることが出来た。そして、政治的に活躍、禁門の変、第一次長州征伐で活躍。坂本竜馬と面会する。さらに、39歳の時、鹿児島の岩山イトを娶った。彼女も隆盛に献身的に使え、一女を育てたが、奄美の愛加那の一男一女も育てている。慶応元年(1865)39歳、王政復古の大号令の発布に尽力。42歳、明治元年、鳥羽伏見の幕府軍との戦いで指揮を執る。勝海舟との会談で、江戸無血開城を成し遂げる。45歳、明治4年、参議となり、廃藩置県を遂行、事実上政府首脳となる。46歳明治5年、「横山安武碑文」をつくる。明治6年47歳には、朝鮮使節派遣の閣議決定を覆され、職を辞し、帰郷する。明治10年51歳、政府問責の為、兵を率いて鹿児島を発するが、戦いに敗れ鹿児島に敗走し、別府晋介に首をはねさせ死亡する。明治22年(1889)には明治天皇より罪を許され、正3位を贈られる。以上の日本の明治時代の初めに日本の曙を立ち上げた貴重な政治の大功労者であつたが、薩摩藩より計2回も奄美大島へ流され、生死をさまよう体験をした事は今生きる我々にも実感できました。

1 日目の旅 昼食後は奄美では被害が多い、ハブの生態をユーモアたっぷりの解説

付きで見学、それから奄美パーク(ここは30年ほど前には奄美空港だったが滑走路が少なかったので記念館などのパークとなった)、ここでは奄美群島の歴史文化を展示されていて見学、さらに別の建物では島と自然を描いた画家「田中一村」の記念美術館を見学、田中一村は東京美術学校日本画科で東山魁夷などと同級生、将来は宿望され活躍されていたが、

奄美の自然に魅かれ、奄美に移住、73歳まで独身を通し、奄美の自然を絵画に現した画家でした。その作品は見事で、又、是非とも来たい気持ちになりました。次は奄美市の笠利町東部にある「あやまる岬」で奄美十勝に数えられる景勝地。サンゴ礁や美しい海の展望を漫喫し、奄美北部にある、奄美ホテルリゾート、コーラルパームスでは、地元の親子の島唄ライブを参加の皆さんが阿波踊り風のぞめきにアレンジして楽しんだ。



①昼食ひさ倉、近くの街路で ②あやまる岬ガイドさん付き ③あやまる岬北部を展望

2日目の旅

まずマングロープの森が広がる静かな住用湾を巡るカヌー体験し、油井岳展望所で奄美十景のひとつ、大島海峡や加計呂麻島を展望、昼食後は古仁屋より海上タクシーの20人程が乗船可能なボート（海上タクシー）加計呂麻島の瀬相港へ、そこでは小型バス運転手の案内で島を巡った。先ず映画「男はつらいよ」のロケ地で、加計呂麻島一番大きいガジュマルを見学した。次に、太平洋戦争の特攻隊となった震洋艇の保管場所(この場所は奄美大仁屋港を中心とした加計呂麻島間の大島海峡は大きな湾なので、太平洋艦隊の殆どが停泊でき、海軍の中心地となっていた)を見学。その近くには奄美大島の司令官で、当地の女性と交際し、妻としていた島尾俊雄の文学碑も探索、それからバスは東の端に移動し、かつて「東郷元帥」は安脚場の高台で大島海峡を利用する海軍を監視し指揮したという、雄大な戦跡公園を見学、次に、そこより瀬相港へ直行し、古仁屋港経由名瀬市へ向かった。その間1時間余、ガイドさんの熱心な奄美大島の島唄付き説明に感心。

18時30分に名瀬市のウエストコート奄美に到着。やはり、21万余の奄美大島の中心地、名瀬は夜も明るく賑わっていた。



④ガジュマルの巨木

⑤「男はつらいよ」の記念碑

⑥ディゴの巨本

3日目、旅の終り

ホテルを朝08時発、龍郷町の奄美名産品を買い物をし、次は

奄美で有名な焼酎工場を試食見学。続いて1300年以上の歴史を持つ奄美大島紬の作成の全工程を見学、やはり一着24万という価額は不変で、大変な工程を経て織られている。奄美大島は唯一の生産地であり、情熱をかけているのが伝わってきた。ただ、若い人達への継承が不安と云う。生産されているのはハンカチや小物から高級品のバッグまで、幅広く手掛けていた。そこより、奄美大島空港へ到着。各自昼食をとって伊丹空港へ送迎車で徳島、香川へ自分は鳴門よりタクシーにて小松島へ送って戴いた。この旅は徳島より奄美大島と言う、日頃なじみが薄い地域だったので興味津々の旅だった。



⑦屋外での染色作業



⑧工場内にも椰子やソテツが



⑨作業員にも年配者が多い

奄美大島は薩摩より鹿児島県への昭和2年までの調査ではかつて、役職のある人や裕福な人には苗字を与えられ、二字の名字が付いて居た。しかし約8割の人は一字のみであった。やはり薩摩との差があったのが伺える。季節は台風、豪雨、暑さ、寒さも年間厳しく、鹿児島よりの船便も不定期で安定していない。その生活の差からか、かつては1805薩摩藩より差別され、役人が各地方を支配し、コメ、野菜、サトウキビなど統制した歴史が残っている。だから、遠島人の数は奄美大島では文化2年(1805)遠島人 356人 帶島人 601人 島中 35,066人 沖永良部島では文化12年(1815)遠島人 男64人 島中8,971人 赦免にて鳥居附(男10 女1)を記録、しかし、日常生活では奄美の人達との交流が有ったのも伺えます。太平洋戦争にて名瀬や古仁屋の市街地にも爆弾で破壊され船舶など莫大な被害を受けたが、市民住民はそれにめげず立ち上がり、昭和20年9月20日米兵により占領され、日本の国籍から米軍支配となった。それから必死の努力で、市民生活を立て直し、米軍のお米や生活用品が一時3倍にするという指令もあったが、日本復帰に高校生や各団体、アンケート9割6分の効率で日本復帰運動を実施し。奄美大島、徳之島、沖永良部住民が一丸となり盛り上がり、8年後の昭和28年12月27日、奄美群島の祖国復帰が実現した。奄美住民21万人の成果でした。このように奄美大島は環境には厳しいが、農業、漁業など生活に合わせた人生を素朴に歩んでいる。又この地域では若者のカヌー、ボート、サーフィング盛んで古仁屋湾など絶好のスポット。

完

「徳島県は日本一ごみが多い。」直木賞作家の車谷長吉さんが、徒歩で四国霊場を回った体験を書いた著書の中に、そのような一節があります。今までに徳島を訪れたお遍路さんも、同じことを思っていたかもしれません。

自分一人ぐらいはと軽い気持ちでゴミを周辺に捨てていくことが、人から人へと広がっていった結果だと思います。徳島を訪れたお遍路さんが気持ちよく霊場を回れるようにするのも、お接待になるのではないのでしょうか？

良かったことよりも悪かったことの方がすぐに伝わると思います。徳島の知名度が低い中で悪い印象が国内外の人達に伝わると、徳島を良くするために様々な活動に取り組んでいる人達の汗を無駄にしてしまうと思います。

掃除をすることによって、自分だけではなくて周りの人達も気持ちよく過ごせる空間をつくることができます。様々な分野でワースト1が多い徳島だからこそ、日本一の清潔県にすることから汚名を返上していきませんか？

絵手紙



昭和町ポケットパークの作業ボランティアのお願い

昭和町のポケットパーク（グーグルマップでは、「昭和コミュニティガーデン」ときちんとのってます。）は、毎月第1日曜日の朝9時から午前中、作業を行っています。

この公園は、行政や一般の人、近所の企業と一緒に実施した「活動の原点」であります。

今、小松さんたちが頑張って、きれいな公園になっています。（4 p 参照）是非、皆さんも一緒に、ここでの作業を通して、季節の移り変わりを楽しんで下さい。



一步会だより(第21号)の編集後記

当初の発行予定から遅くなりました。

申し訳ございません。

さて、今年の5月1日から「令和」に改元がなされ、国内的には新時代の幕開けとなりました。

しかしながら、国内外の政治・経済を見てみると、相変わらずの困難な事象が頻発しています。

何もしないで、個人や仲間、地域の「幸せ」や「やりがい」が、天から降ってくるわけがありません。

やはり、「自分（たち）の夢は、自分で叶えようと動き出すこと！」、これにつきますかと思います。

本年度も一緒に、頑張りましょう！

（編集担当：富田欽二）